



平成23年12月15日

2面	〜4面	編集部座談会
5面	ひと	
6面	スポーツ結果	
7面	青年の家だより	
	俳句・短歌・情報	
8面	視点・声・ペンペン草	



まつかわ百景 ⑤7

「ふじ祭り」

今年は清流苑に場所を移して開催された。
気仙沼のサンマを焼いて販売する店など、いろいろな屋台が出店された。

町の公民館や町民体育館の利用状況、あるいは館報、音声放送などのお知らせからもうかがえるように、町内では様々な活動が活発に行われています。本館社会部でも、あじさつ運動をはじめ、音楽祭、人形劇、映画会などの活動を毎年実施しています。

このような活動をする中で、何のために事業を企画・開催しているのだろう、公民館とはどんな場所なのだろう、公民館活動の良さってなんだろう、といったことをふっと考えたりもします。

そこで今年度の公民館研究会では、公民館誕生の背景や長野県の公民館の特徴なども踏まえながら、社会教育施設として位置づけられている公民館の意義についてみんなで考えてみたいと思います。とともに、今おこなっている活動にはどんな良さやすばらしさがあるのかといった学習的価値の発見もしていきたいと考えています。例えば、社会部主催の松川町音楽祭

主張

公民館活動の中から 学習的価値の発見を!!

は、町内の皆さんが音楽に楽しむ場として、また、音楽愛好者の発表の場として開催されています。さらに今年度は、オープニングで全体合唱をしたり、例年中学校の吹奏楽部と松川吹奏楽団でおこなっている合同演奏に松川高校吹奏楽部も加わってもらったことで、世代間のつながりをつくる場にもなっているように考えました。

このように、1つ1つの活動に引き合える集いにできればと思っています。

今、人が地域と関わって学び、その成果を地域にいかすという教育の考え方があっていいです。今回の集いで出された活動の学習的価値と、昨年度の集いで話し合われた地域の現状や課題とを結びつけて考えていくことで、公民館が「学習」と「まちづくり」とを結びつけていく場になればと願います。ぜひ町民の皆様も集会に参加していただき、貴重なご意見をいただければありがたいと思います。

社会部長 大場将博

公民館報つて何だろう

編集部座談会

今年度も1月に公民館研究集会在行われます。

テーマは私達が現在行っている公民館活動の効果や意味について振り返る内容となりました。

研究集会を目前に、今回は、編集部員で座談会を開き、現在の館報のよさや意味・課題について考え、今後の館報作りについて話し合いました。

(1)昔と今の共通点と違い

【共通点】

(宮下・徹)

● 一つの時代もマンネリ化といわれる。

● 館報はその年の重要な記録である。

● 広報的話題、館報的話題という話がある。

【違い】

(宮下・徹)

● 1ページ当たりの紙のサイズがB5からA4になり、文字や写真も大きくなった。

● 館報と広報の合冊により、何が広報

【出席者】

役職	氏名	文中
公民館長	矢澤 登	(館長)
部長	松下 佳史	(松下)
副部長	大東 洋文	(大東)
部員	宮下 徹	(宮下・徹)
	宮下 和子	(宮下・和)
	坂本 美帆	(坂本)
	宮崎 亜希子	(宮崎)
	光澤 正之	(光澤)
	大久保 康司	(大久保)
	巻井 美幸	(巻井)
主事	新井 直彦	(主事)

的話題で何が館報的話題なのかより難しくなった。

(2)マンネリ化は悪いハジメ!?

(宮下・和)

マンネリ化は必ずしも悪いことではない。長く続けることの良さもある。

(大東)

「いつもある」という安心感も大事。

(坂本)

もちろん特定の紙面も大事だが、2・3面はできるだけ特集を組んで

その時その時の旬な話題を取り上げたほうがよいと思う。

(巻井)

飯綱の館報をみると、写真の大小や形、タイトルの標記などメリハリがついている。松川はどうしても段組の大きさを写真サイズを考慮してしまう。結果いつも同じような割付になってしまい、マンネリ化していく。

(宮崎)

紙面すべてを見るということはないが、子どもが載っていると、お父さんやお母さんもそのページをみる。できるだけ多くの人を取り上げることが大事だと思う。

(館長)

5面の「みんなで仲良く」は、人権という幅広い視野で考えていけないか。子ども以外に、外国人の問題、介護や高齢化の問題など様々あるように思う。

(坂本)

「青年の家だより」や「子どもの詩」あたりもフォントをかえてみたら

どうか。横書きを取り入れてもアクセントがつかう。

(松下)

飯綱は2ヶ月に1回の発行だが、松川は1ヶ月に1回の発行なので、旬なネタを取り上げることができる。

(3)館報は記録だけでよいか

(松下)

取材でいつもとまどうのだが、感想は入れずに事実だけ記せばよいのか？

(大久保)

ついつい事実の記載に終始してしまう。

(光澤)

個人の感想を加えるか私も悩む。館報553号(H22、11月号)の韓国旅行記から記すようになった。

(宮下・徹)

チャンネルYOUの取材では、なかなか個人の意見をつけ加えるのは難しいが、館報はそれができる。



普段部員会で話しきれない部分までふみこんで、具体的な話し合いができた

編集部員同士での話し合い



昭和31年から続いている歴史ある館報

(宮下・和)

広報もチャンネルYOUと同じで事実の記載が中心である。館報との決定的な違いはそこではないか。

(主事)

個人的にはべんべん草が読んで一番好き。個人の感想や思いがあるからその人らしさが一番あらわれる。

(巻井)

若者が読みたくなるような視点もこれから研究していきたい。

(館長)

校正をしていると、記事に書かれている活動の価値や意味に気付くことがある(名子地区のゴミ拾い等)。そういった部分も大事にし伝えていきたい。

(4) 公民館っていったい

どんなところか

(光澤)

事実の記録に個人の感想を加えるか悩む度に、公民館って一体どんなところだろうという疑問にいきつく。

(宮下・和)

取材のときも役場の職員に間違えられる。「公民館」という名前や役割があまり知られていない。

(宮崎)

館報ってなに？といわれたことがある。

(宮下・徹)

館報の認知度の低さは昔からあり、館報永遠の課題である。3回連続館報全国優秀賞の飯綱も、あまりよく知られていないかもしれない。一回きいてみたら面白い。

(光澤)

一層のことタイトル「公民館報ま

つかわ「公民館報」の文字を大きくしてみたらどうか。

(5) 取材の方法

(光澤)

用のないと感じることも聞いておく。そして話をきく前からテーマや話題を見つけていくようにしている。

(坂本)

その活動の特色は何か、その年の特色は何かを捉える。例えば音楽祭は事前に調べてから取材に臨む。館報の取り上げ方も全部載せるのではなく、大事な部分をピックアップして、その他は箇条書きでまとめておくことよい。

(6) 写真の撮り方

(宮下・和)

被写体に近づくとよくいうが、中々難しい。まつかわ大学などの写真は、一方方向ばかり。割付もマンネリ化していて何とかしたい。

(宮下・徹)

アップや全体の写真など、出きるだけ多く撮るとよい。

(坂本)

デジカメは現像の必要がないので、枚数を気にせず撮れるところがよい。講演会の取材は講師に失礼のないよう、また取材に集中するよう最初と最後の5分ずつを写真撮影の時間とするとよい。

2011.11.21



座談会の様子を記録・整理したメモの一部

(7) 名前の記載

(宮下・和)

文末に名前の記載は必要だろうか。住民の方2、3人くらいに聞かれた。

(坂本)

1面の主張と8面のべんべん草にはしっかり記しているのですが、その他の部分に関しては公平性を保つていけば、特に記載の必要はないと思う。内容の相違などすべてのことに文責を課すのはどうかと思う。

(主事)

館報だけに限って考えれば、名前の記載は文責だけではないと思う。それ以上に、これは〇〇さんが書いた文なんだなと話題になることも大事ではないか。

(宮下・徹)

記載の有無はみんな決めておけばよいが、「ひと」な「かまたち」くらいは名前があってもよいと思う。

座談会を終えて

今まで館報について、このように時間を作って話し合う機会が無かったので、部員の意見が聞けて良かったと思います。

普段の部員会は、企画と記事の割り付けのために月2回行っていますが、仕事等で部員が集まらなかったり、締め切りに追われてしまったり、今、今回、今まで作ってきた館報を振り返る事もできました。

座談会の中では、記事のマンネリ化、公民館活動の記録、現在の館報の良い部分や改善していく部分など多くの意見ができました。私も記事を書く際に、昨年のものを参考にし

作りやすい館報 読みやすい館報に

部長 松下佳史

書きます。同じ行事や内容を伝えることはマンネリ化の側面もありますが、その時代の特色もみえ活動の記録として役立っていると思います。

現在、部員10名と館長・主事・主事補にて編集作業を行っています。それぞれ仕事の違いや活動年数の違いもあり、館報についてもさまざまな視点から意見がでました。今回の座談会でも多くの意見が出たように、読んでくださる住民の皆さんも一人一人違う意見を持っているかと思えます。この座談会を参考に館報の作り方を完璧に決めてしま



ては、部員の個性や感性が消えてしまう事もあります。また、今まで館報を親しみを持って読んでくださる方もいると思います。これからは特集ページを中心に松川町の旬な話題や問題も載せていければ良いかなと思えました。

公民館報は奥が深いもので部員の求める紙面、読者が求める内容は遠いかと思いますが、だんだん近づけるよう試行錯誤していければと思います。

町民の皆様も、館報に関するご意見をお聞かせいただければ幸いです。

「公民館とは何だろう」という

問いかけをしながら館報の編集を

公民館主事 新井

記録性の大事さ

今回の話し合いで、館報の「記録性」というものの大切さが確認できました。実際、松川町史編纂にも館報の記録が役立てられているといいます。活動の特徴やその年の特色をとらえながら、その時代その時代をうつしだしていくことができると思います。

これからの館報に生かしていきたいもの

一方で、今回の話し合いの中で出された「事実だけの記録だけでよいのか」という投げかけもとても大事な問いだ

と感じています。公民館が、自分たちの生活をよりよくしていくと仲間や学習しあう場であることを考えれば、単なる活動の記録にとどまらず、住民一人ひとりの声に耳を傾け、伝えていくことも大切にしていかなければなりません。また、取材者(編集部員)の取材の意図や取材を通しての感想も、公民館報としてとても大事になってくるように思います。そのために、今度の公民館研究集会では、今回話し合われたことを土台にしながら2・3面の特集ページの企画案をみんなで考えていきたいと思えます。

第49回

松川町公民館 研究集会のご案内

まちづくりと公民館①ともしび
「公民館活動で地域に燈火をともしよう」

～学習的価値の発見から～

日時：平成24年1月22日(日)
午後1時30分から
場所：町民体育館トレーニングルーム

オープニングでは、松川高校書道部の皆さんによる書道パフォーマンスを予定しておりますので、ぜひ見に来てください!

社会部の魅力について語る

長野県公民館活動 功労者表彰受賞



この度、長野県公民館活動功労者として中央公民館社会部で活動された小島慎司さん、奥田茂さんが表彰を受けました。

お二人とも若いうちから活動に参加されたこともあり、長年にわたり社会部で経験した思い出を振り返っていただきました。

るきっかけは、当時の顧問からの誘いだっただけです。

小島 慎司さん
奥田 茂さん



小島さん：「社会部やめる時、よく考えてみたら娘が生まれた年に入ってたんですよ。で、その娘が今年の三月で高校卒業したから18年になるんですね。」

小島さんの任期は18年、奥田さんが16年。そんな長期間携ることな

小島さん：「突然電話があつて、社会部つてのがあるんですけど、どうですか？つて言われて、当時はそういう組織自体あるつて事を知らなかったもんで、「すぐ返事しなきゃですか？」つていったら「イヤー、実は…今夜社会部の部員会があるんで…ぜひ来てほしいんだけど…」なんて言われてそのまま…(笑)ま、俺の場合はそんな風で良かったほうなんだけど先輩の話聞くと、家に突然「委任状」(本来、部員になることを承諾すると館長から正式に頂く物)が届いて、なんだろうか？つて思ってた知らないうちに部員になってたつて話をきいたけどね。」

奥田さん：「(笑)そうそう。」

と、昔はなかなか強引な勧誘だったようで今では笑い話のひとつとして語り草になつてるようです…。(笑)

中央公民館社会部と一口に言っても活動内容は意外と幅広い。地域社会やゴミ問題、文化祭や音楽祭などのイベント準備など…。自分達の活動はもちろん、町の行事も手

伝う役割も担っていました。

今でこそ改善されてきたようですが、少し前まではテーマとする分野が広い上、他の体育部、編集部との連携も乏しく負担が大きかったと小島さん。

しかし、「忙しくて大変だったんじゃないですか？」という問いに、

小島さん：「確かに大変は大変だったけど、忙しいとか嫌だとか言う人は社会部にはおらんかったな。」

奥田さん：「そう思ったことは何回もあるけどね。(笑)」

小島さん：「(笑)まー思うことはあつても、みんな責任もつてやつとつたし、出来ん時は出来んつて言えば、じゃあカババーしあうかつて感じてやつとつたもんで、先輩もそうだったし後に入ってきた人たちも本当にいいメンバーに恵まれたな…つて。」

奥田さん：「ほんとそうだね。うん。」

実際、仕事の都合や他の団体の役員や行事など、それぞれい



小島慎司さん

ろんな事情があつてもお互いカバーしあいながらやつていく姿勢は先輩から後輩へ自然と引き継がれていったようです。

また、活動していくうちにやはり他の部との横のつながりがあった方がいいのではと感じ、当時の正副部長をとし公民館へ積極的に働きかけ、合同で研修や研究会をするようにしたり、お互いの活動で人手がいるような時は協力しあったりと現在のように変えていったのです。

小島さん：「自分達が変わつたつていうよりは、自分達の時に変わった部分はあるんだけど、今まで先輩達がやつてこつた方がいいていうのを聞いたりした事を実際にやつたんであつて、たまたまその瞬間に俺らがおつただけでずつとそういうのが続いてきたんだろうし、これからもそうやつて変わつてくんじゃあないかな。」

と謙虚に語つてくれた小島さん。

時代の流れによつて公民館活動のシステム自体が、切り替わりの時



奥田 茂さん

期というのもあり、いろいろ意見を出し合つてよりよくしていこうと活発な議論が部員会の中でも交わされたようです。

小島さん：「入つた頃の先輩達つて飲むのが好きな衆で、部員会後は必ず飲みに行つたでな。7時から9時まで公民館で部員会やつて、その後居酒屋に移つてまた、部員会が始まるんですよ(笑)で、後半戦の方がみんな酒も入つて思つたこともガツガツ言うし。」

奥田さん：「熱いバトルになるんだよね。(笑)いい意見も出るし。」

小島さん：「で、それを部長が聞いてつて、次の時に生かすとか。」

奥田さん：「あれはあれで無駄じゃないんだなあ。」

最後に、それまでほぼ相づちのみだった奥田さんが、静かに語つてくれました。

奥田さん：「公民館の部員になれるのつてごく一部じゃない？おれはたまたま声かけてもらつて経験できたけど、できる人つて本当に少ないから、もしも、声がかかつた時はぜひ、公民館部員になつてほしいな」と。経験者としてね。」

小島さん：「いい事いつたな。さいごにいく。(笑)」

と、仲良く楽しげなお二人。よほど充実してたのでしょね。今まで、熱心に誇りを持って活動してきた様子がうかがえました。



10区片桐さん

町内関係者の成績	1区	米山祐貴	37分13秒 (区間13位)
	2区	松下拓磨	23分17秒 (区間1位)
	10区	片桐剛司	47分18秒 (区間2位)
	12区	西永佳人	34分33秒 (区間7位)
	13区	熊谷美佑	6分56秒 (区間4位)
	19区	亀山絵未	15分51秒 (区間4位)
	22区	松山克敏	47分26秒 (区間4位)
総合5位		飯田下伊那	

第60回長野県縦断駅伝大会

寒気に負けず 元気にスポーツ月



22区松山さん

松川町 早起き野球リーグ戦

優勝 松川ファイターズ 準優勝 平成トンネルズ 3位 チョイスメン ノーヒットノーラン賞 山田宏勝 (平成トンネルズ)

第6回ミスノカップ m&mチャレンジソフトテニストーナメント

11月27日、南長野運動公園テニスコートで行われた中学生男子の部において、393チーム参加したトーナメントを勝ちあがり、優勝しました。優勝 古屋敷 治輝 中島 将吾

第27回松川町駅伝大会結果

総合優勝	男バスおバカ集団	1時間07分14秒
------	----------	-----------

【部門別入賞チーム】

部門別	優勝	準優勝	3位
一般男子	陸上クラブコーチ 1時間08分21秒	陸上クラブおやじーズ 1時間14分57秒	日の出ランナース 1時間16分8秒
一般女子	天によじ登るおっ母ず 1時間40分34秒	松中教員ルパン 1時間41分41秒	陸上クラブママさん 1時間42分12秒
高校生男子	松川高校陸上部 1時間07分20秒	松川高校バスケ部2年 1時間20分21秒	松川高校バスケ部1年 1時間25分24秒
中学生男子	男バスおバカ集団 1時間7分14秒	北安松川中学校(男) 1時間10分28秒	ガチで行っちゃいます 1時間13分1秒
中学生女子	最速うさちゃんズ 1時間15分29秒	怪獣と人間 1時間22分53秒	北安松川中学校(女) 1時間23分45秒
小学生男子	陸上アスリートジュニア 1時間12分3秒	陸上アスリートボーイ 1時間22分40秒	スマイルサッカー 1時間25分25秒
小学生女子	陸上アスリートレディー 1時間24分29秒	陸上アスリートガール 1時間28分57秒	バスケ大好き4年女子 1時間32分20秒

第27回松川町駅伝大会結果 平成23年11月6日(日)午前9時10分スタート

総合優勝 男バスおバカ集団



初出場 北安松川村からのコメント



県駅伝大会で良い成績を残している伊那松川さんなので胸をかりるつもりで参加しました。他のスポーツ競技者も駅伝に参加されて、スポーツの盛んな町だと感じました。伊那松川の陸上の強さの秘密を知りたい。 駅伝は勝負のイメージが強いが、お祭り気分チーム色があり、おおらかで良かった。また、このような大会に呼んでいただき楽しかった。

1区 友希くん、ありがとう！ 山口聖人 3区 オレ、すごくガンバったぜ！ 大島綾太 4区 雨が止んで良かったネ！ 矢澤康次 5区 小学校の校庭がグチャグチャで悲しかった。下沢 大 6区 抜かれなくて良かった！ 宮下泰斗 ※なお、お話を聞くことができませんでしたが、2区の走者は河野友希さんでした。

声

上大島公民館学習会「語りつた」 気仙沼へ向けて

上大島地区公民館主事 北沢秀公

上大島公民館では、5年に一度開催する学習会「語りつた」に向けて、年度当初より検討をしてまいりました。

「3・11」東日本大震災。私たちは、地域で活動する公民館部員として、何を区民の皆さんへ届けたいのか考え、被災された皆さんの声、そして復興・未来に向けた、地域が聞きたい。そんな思いから気仙沼において牡蠣の養殖業を営む、畠山正則さんにお越

しいただくこととなりました。講演会だけでなく私達に来る事はないか？部員一同考える中、松川町といえはくだもの里。ならばくだものを届けよう。とまとまり、そこで地域の皆さんへ協力をお願いしたところ、なんと170箱約1700kgという目標の2倍以上のりんご・梨・野菜などが集まりました。地域の皆さんの力は、本当に凄いなと実感した瞬間でもありました。ご協力いただいたことに心か



視点 まちの石仏 ⑩ 「甲子様」(華厳寺) 甲子信仰の主神「大黒天」が刻まれている。



ら感謝申しあげます。

実際、気仙沼へ行き仮設住宅421世帯のみなさんへ届けて参りました。現地は、9か月近くたったにもかかわらず、海から500m以上流されたままの大型船。市内一帯が火災により焼けおち、いまだ電気がないため、夜は真っ暗な商店街跡。歩くことも怖く、荒野



まごころのくだもの

といった状況など、書ききれないくらい悲惨な状況が残っています。

しかし、ここで生きている皆さんは、とても人柄が優しく、前をむいて未来へ向けて取り組んでいることが伝わってきます。

必ず全国に海産物を届けるからまた来てください。わざわざ、りんごをありがとうと何度も言ってくくださる方。私たちは、どのように声をかけ



それぞれの想いを手渡す

ていいのか戸惑いながら現地で活動をはじめましたが、逆に気仙沼の皆さんから、元気を、勇気を、いただきました。

松川町も、大震災がいつ起きてもおかしくないといわれています。その時、私たちは何ができるのか、改めて考えるきっかけとなりました。

そして最後は、行政でも企業でもなく、地域のつながりです。地域のつながりなくして生活は成り立たない。避難生活は送れないことを現地の方から教えていただきました。

松川町の公民館活動は、公民館活動発祥の地ともいわれるほど、活動の盛んな地域です。この歴史をこれからも続けることで、私たち公民館活動が地域協働にむけたひとつになればと思います。

がんばろう東北！がんばろう日本！

2022年

最近、1歳半になる長男が肺炎で入院した時の事。4歳になる長女が一枚の絵を手渡してくれた。入院中の弟と付き添いのお母さんの絵だった。早く良く治って欲しいとの思いから、まだ字が書けない分、自分が描ける絵でお見舞いをしたかった長女の気持ちがあふれしかなかった。長男が産まれる時も、一週間ほど入院があり、その時は寂しくて毎日のように泣いていた長女が、今回は、自ら励まそうと思う成長の姿に親バカかもしれないが感動を覚えた。人を励まそうとする時大人になるにつれ、言葉を選んだり、どうしても頭で考えず、時には励まそう事が自己満足になっってしまう時もある。方や策ではなく、相手を励ましたいと思う一念が、一番相手に伝わるという事を今回の事で学ぶことができた。

子どもが入院するという事は普通に考えれば、悪い事なのかもしれないけれど、自分にとっては、子どもの成長を肌で感じられる絶好の機会となった。入院が決まった時、明日からあれをやって、これをやってと頭の中が若干パニックになり一週間やっていけるのか不安で、夜中に何度も目が覚めてしまった。そんな不安の中作った朝飯の目玉焼きを長女が「おいしい」と言っていて残さず食べてくれた。自分にとって最高の励みでした。

何かと人と会う事の多い師走。慌ただしさに流されるのではなく、一人でも多くの人を励ませられたらと思う。

大東洋文

公民館報
「まっかわ」
第 578 号
平成23年12月15日

発行者 松川町公民館 登部
責任者 矢澤 公民館編集部
編集人 公民館編集部
Tel 36-2622
e-mail: ckouminkan@matsukawa-town.jp
飯田市上郷黒田121
印刷所 龍共印刷(株)